

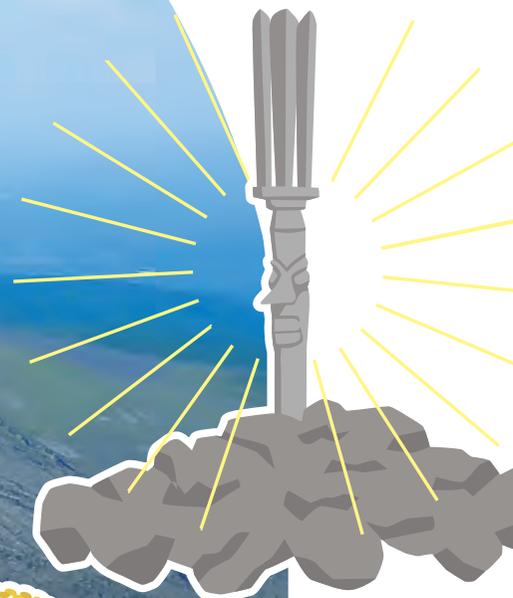


霧島錦江湾国立公園 ストーリーブック



霧島地域

～国立公園の魅力を高めるために
関係する地域の皆様と共有したいストーリー～



目次	P01		
この冊子の使い方	P02		
1 地域関係者のみなさまとの 国立公園ストーリー共有について	P03		
2 霧島錦江湾国立公園概要	P10		
霧島錦江湾国立公園地図	P13		
3 霧島地域全体つながり図	P15		
霧島地域ストーリー ①～③ 来訪者に望まれる体験 ストーリーを実感できる、おすすめの場所・体験	P16		
4 日本の国立公園（制度、外国の国立公園との違い）	P31		
日本の国立公園地図	P34		
			5	国立公園のブランドプロミス、 国立公園のストーリーの意義と保全・ 利用への活用について
			 P35
				国立公園のブランドプロミス
			 P36
				国立公園のブランドプロミスと ブランディング活動の関係
			 P37
			6	ジオパークと霧島錦江湾国立公園
			 P38
				ジオパーク地図（霧島 / 桜島錦江湾）
			 P40

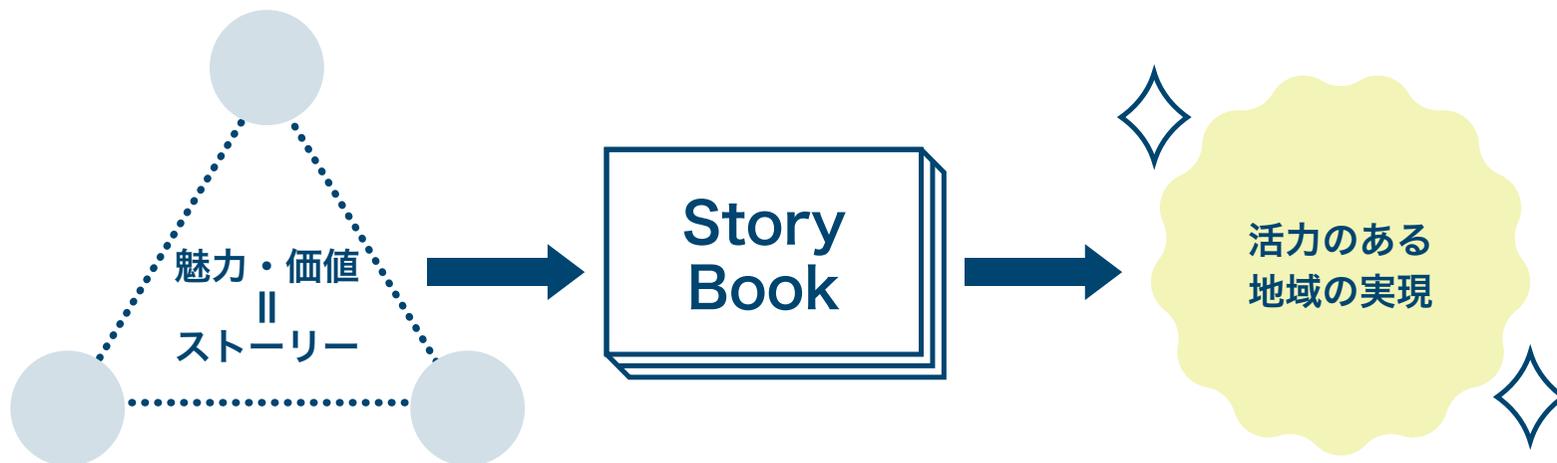


この冊子の使い方

全国に 35 か所（2025 年 3 月現在）ある国立公園は、我が国の景観を代表すると共に、世界的にも誇りうる傑出した自然の風景の保護と利用を目的として指定されています。世界でも「国立公園」は多くの人に愛され利用される存在となっており、訪日外国人にとっても魅力的な訪問地として期待されています。

「霧島錦江湾国立公園」は、我が国最初の国立公園の一つであり、自然景観の美しさに加えて、その地域の成り立ち、そこに住む動植物や自然が育んだ土地の文化や歴史などの「ストーリー」が豊かな魅力を引き出しています。国立公園に点在する景勝地や歴史・文化が「ストーリー」として結びつくことにより、国立公園のブランド価値が高まります。そしてそのストーリーを地域の人々が共有し、伝えることにより、来訪者はその価値を実感することができ、地域への愛着も高まると考えられます。

国立公園の保全と利用には、地域の様々な立場の方が関わっています。このストーリーをみなさまと共有し、それぞれの立場から発信していただくためにこの 1 冊をまとめました。この冊子があなたにとって「霧島錦江湾国立公園」をより深く知るヒントとなり、地域の魅力や価値を伝える手助けになれば幸いです。



地域関係者のみなさまとの 国立公園ストーリー共有について

前述のように国立公園の保全と利用には、地域の様々な立場の方が関わっています。それぞれの立場の方が国立公園のストーリーを活用して発信していただくことにより霧島錦江湾国立公園の魅力や価値が、国内外から認識されるとともに活力ある地域の実現につながっていくことが期待されます。

ここでは、その発信方法についての例を示しています。参考にいただき、地域全体で国立公園のストーリーを発信していきましょう。

ガイド・インタープリターのみなさま



訪れた方に霧島錦江湾国立公園のストーリーに沿った、この地域ならではの体験を提供する際に活用していただきたいと思います。また地域資源の保全のために、その価値を伝えていただけたらと願っています。

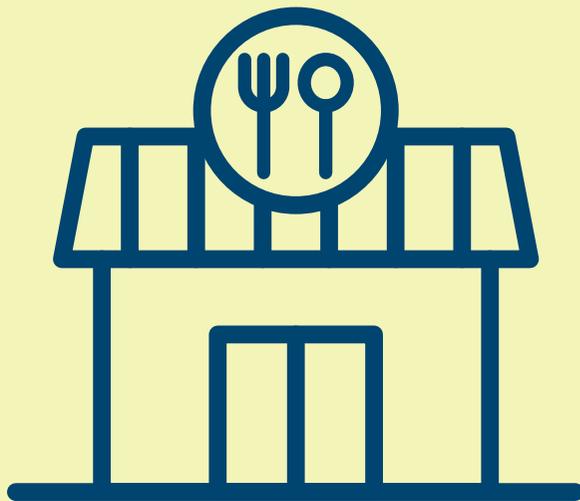
活用例

- ・ガイドで話す内容、展示、パンフレット、ホームページなどに「ストーリー」を盛り込む
- ・ツアーを組み立てる際に「来訪者に望まれる体験」を参考にする

期待される効果

来訪者が地域のストーリーにふれると、ツアーやアクティビティでの体験がこの場所でしか味わえない特別なものになります。その結果、地域の魅力や価値に気づき、参加者が地域のファンやリピーターになることが期待されます。

飲食店のみなさま



訪れた方に霧島錦江湾国立公園が育んだ独自の食を提供する際に活用いただきたいと思います。

活用例

- ・商品やメニューを考案する際に「ストーリー」を参考にする
- ・従業員の方が食材を説明する際や、店内で食材の紹介をする際に「ストーリー」を参考にする

期待される効果

地域で育まれた食材や料理をストーリーとともに提供することで、その土地ならではのものを食べたいという来訪者のニーズに応えることにつながり、地域が培ってきた食文化を体験することで来訪者の満足度の向上が期待されます。

宿泊事業者のみなさま



訪れた方に霧島錦江湾国立公園の魅力やストーリーを伝える際に活用いただきたいと思います。

活用例

- ・提供する食事のメニューやパンフレット、施設内の装飾に「ストーリー」を活用する
- ・フロント等で観光コースを案内する際に「ストーリーを実感できる、おすすめの場所・体験」を参考にする

期待される効果

地域が培ってきた食文化を体験することが来訪者の満足度の向上につながるだけでなく、地域のストーリーに触れることのできる宿に泊まることで、来訪者の旅行の質が高まることが期待されます。

土産物店のみなさま



訪れた方が霧島錦江湾国立公園のストーリーを持ち帰ることができる商品の参考にしていただきたいと思います。

活用例

- ・商品の開発やパッケージをデザインする際に「ストーリー」を参考にする
- ・お客さんとの会話の参考にする

期待される効果

ストーリーと結びつけられた土産物、特産品を購入することで、来訪者が地域での体験を思い出すきっかけとなり、取り寄せや通信販売などを通しての継続購入につながることを期待されるほか、お土産を送られた知人、友人が新たな来訪者になることも期待されます。

交通事業者のみなさま



訪れた方に霧島錦江湾国立公園の魅力やストーリーを伝える際に活用いただきたいと思います。

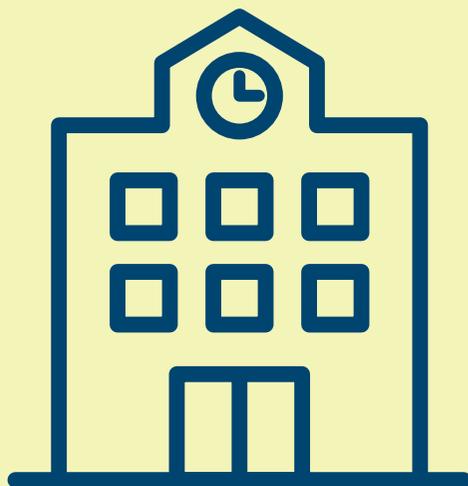
活用例

- ・機内、車内、船内でのアナウンスの内容に「ストーリー」を活用する
- ・パンフレット等を作成する際に「ストーリー」の参考にする

期待される効果

来訪者が移動中にストーリーにふれることで、これから訪れる地域への期待度を上げ、帰路につく来訪者が地域での体験をふりかえり、思い出す機会を提供することが期待されます。

学校関係者のみなさま



地域の児童、生徒のみなさんが霧島錦江湾国立公園の魅力や価値を再発見するために活用いただきたいと思います。

活用例

- ・総合的な学習や探究学習の時間に「ストーリー」を教材にする
- ・野外学習の訪問先を決める際に「ストーリーを実感できる、おすすめの場所・体験」を参考にする

期待される効果

地域の将来を担う児童、生徒のみなさんが地域のストーリーを知ることによって、より一層地域に愛着や誇りを持つことが期待されます。

行政職員・観光協会のみなさま



霧島錦江湾国立公園を様々な形で地域内外に発信する際に活用
いただきたいと思います。

活用例

- ・地域の価値や魅力を紹介する際に「ストーリー」を活用する
- ・資源の保全の方針を作成する際に「ストーリー」を参考にする

期待される効果

地域内外の方に魅力や価値を理解いただけるだけでなく、各資源
の保全と活用に関する指針となることが期待されます。

KIRISHIMA-KINKOWAN NATIONAL PARK

霧島錦江湾国立公園

国立公園とは？

我が国を代表する優れた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与することを目的とする。

霧島錦江湾国立公園は、霧島、桜島錦江湾奥、指宿、佐多の各地域に区分される。

霧島地域は、大小 20 以上の火山が連なる山岳地。火山活動に伴って誕生した火口湖、噴気現象、高原、温泉など、変化に富んだ景観が展開し、「火山地形の見本園」とも称される。霧島山は天孫降臨神話の舞台ともされる神秘の山々でもある。山麓には霧島温泉郷などの温泉地が点在し、同時に良質な水を生み出す。桜島錦江湾奥地域は、現在も噴煙を上げる桜島を中心に、海と火山が織りなす独特の景観を見せ、人々の生活圏は火山と非常に近接している。南に下り、指宿地域に位置する開聞岳は「薩摩富士」とも称される地域のランドマーク。また大隅半島側の本土最南端・佐多岬を含む佐多地域は亜熱帯性植物が多く生育し、南国情緒満点である。

今も噴火活動を繰り返す火山は、「災い」をもたらすだけでなく、多彩な温泉や食文化を育み、人々の暮らしに幾多の恵みをもたらしている。

活きた火山に近接する
大地と海と人のセッション

霧島錦江湾国立公園

指定：昭和 9 年 3 月 16 日

面積：36,624ha（陸域）、37,855ha（海域）

鹿児島県・宮崎県の両県にまたがる

霧島錦江湾国立公園には、現在も噴火を続ける火山や、過去の大規模な噴火によって形成された、巨大なカルデラ群が見られる。これらは九州の東側の海底に沈み込むプレートに起因して形成されたもので、加久藤カルデラ、小林カルデラ、始良カルデラ、阿多カルデラなどが、列をなして南九州地方を南北に並んでいる。

例えば、桜島錦江湾奥地域には始良カルデラの南部に桜島があり、さらにその南側に阿多カルデラが存在している。始良カルデラは現在は内湾となっているが、巨大な火山が噴火して落ち込んだ巨大なカルデラで、我が国屈指の海上カルデラ景観を有する。また、桜島はかつて、名称が示すとおり「島」であった。しかし、大正3(1914)年に起きた大規模な噴火の際、流出した溶岩によって大隅半島と陸続きになった。幕末・明治の時代を生きた西郷隆盛は、現代の私たちが見るのとは異なる、桜島の風景を眺めていたことになる。

大地の姿を幾度となく変化させてきた霧島錦江湾国立公園の火山群。悠久の大地の時間に想いを馳せながら、ダイナミックな地球の活動を目で見ても肌で体感できるのも、この地の魅力だ。

桜島と錦江湾



新燃岳噴火



佐多岬



噴煙を上げながら錦江湾にそそり立つ鹿児島県のシンボル、桜島。人口約 60 万人の県都（鹿児島市）の中心街からわずか 4km という目と鼻の先に、噴火を繰り返す活火山が存在し、その桜島には今なお 3,500 人の人々が暮らす。日々、降灰予報などを気にしながら暮らす環境は、世界的に見ても非常に珍しい。

ここでは、多くの住民が火山からの恵みを楽しみながら、農業や漁業、観光産業などで生計を立てている。降灰は農産物の大敵だが、時には特産品も誕生させる。火山灰土壌を好む「桜島大根」はその代表格だ。また、温暖で湿潤な気候は、発酵食品の生産にも適しており、錦江湾に面した霧島市福山（※国立公園外）には、黒酢を発酵・熟成させる壺がズラリと並ぶ「壺畑」の風景が広がる。また、山々に濾過された水が南九州の焼酎文化を支え、良質な茶葉を生み出している。

火山の恵みの最たるものと言えば、各地で湧出する温泉だ。多彩な泉質のいで湯が湧く霧島温泉郷、地熱を利用した「砂むし風呂」を体験できる指宿温泉のほか、幕末の英傑・西郷隆盛や坂本龍馬が入浴を楽しんだ温泉もある。また、個室の温泉施設を少人数で楽しむ「家族風呂」という温泉文化も霧島が発祥地だ。さらに大地からわき出る蒸気熱を利用した「天然蒸気かまど（スメ）」が各家庭に 1 個ずつ備わっている集落もある。

火山と近接した暮らしは、霧島錦江湾国立公園独特の食文化や温泉文化を形成する、大きな要因の 1 つになっている。



黒酢の壺畑



指宿天然砂むし温泉

© K.P.V.B



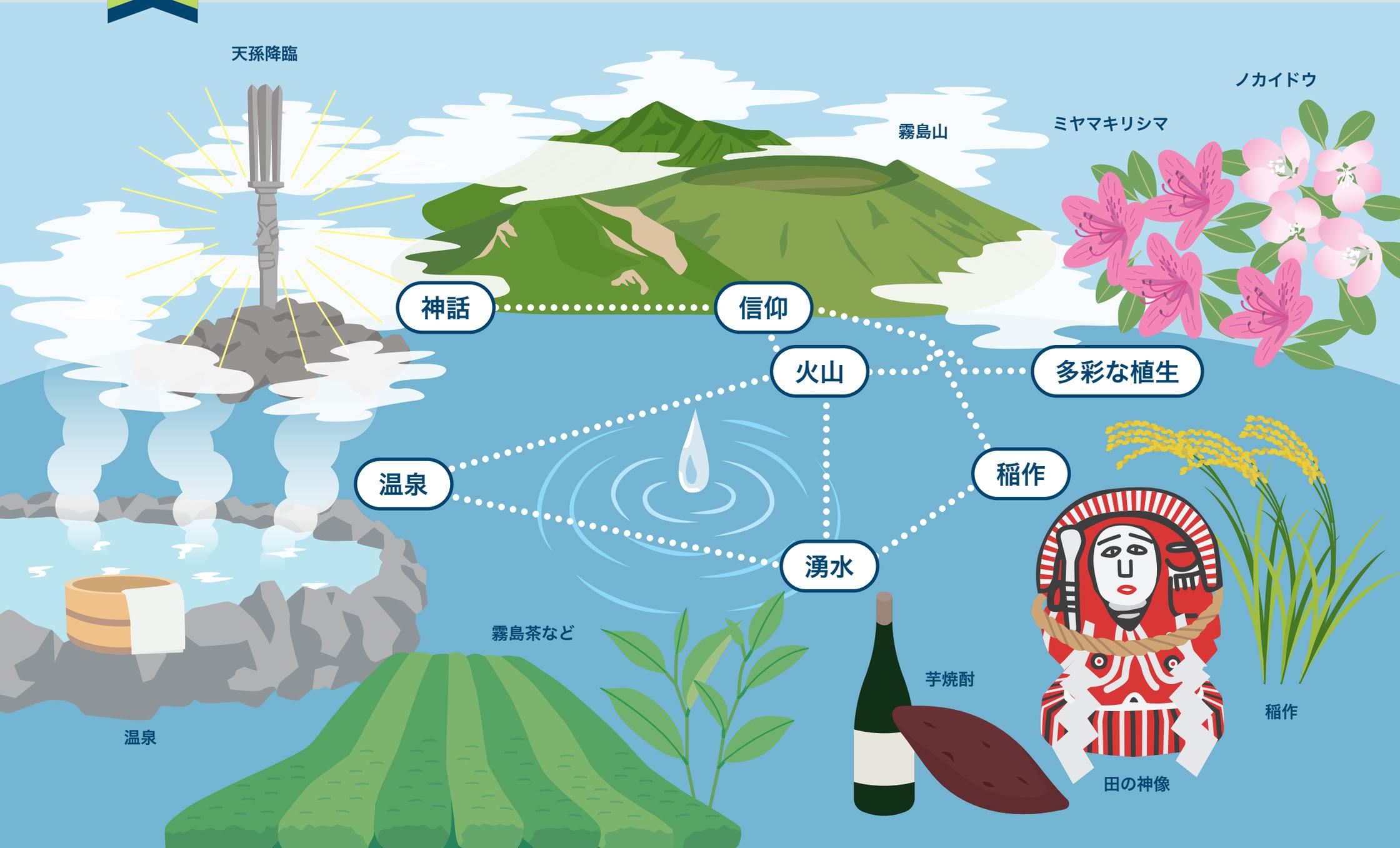
城山展望台からの桜島

世界でも稀有な火山と
人の暮らしの「近さ」





国立公園区域



天孫降臨

霧島山

ノカイドウ

ミヤマキリシマ

神話

信仰

火山

多彩な植生

温泉

稲作

湧水

霧島茶など

芋焼酎

稲作

温泉

田の神像



地域の重要性を表す独自の因果関係

火山への畏怖と恩恵への感謝が信仰を生み、
信仰により守られてきた豊かな自然と景観が、
日本初の国立公園を生み出すきっかけとなった

着目した地域の重要な資源

天孫降臨神話

霧島六社権現

日本初の国立公園の一つ

山岳信仰

神楽

左・天孫降臨御神火祭
中・天の逆鉾
右・狭野神楽



霧島錦江湾国立公園霧島地域は、世界的にも誇りうる傑出した自然の風景が指定されている日本の国立公園の中で、最初に指定されたうちのひとつである。大小 20 あまりの火山が連なり、桜島、錦江湾（きんこうわん）、開聞岳（かいもんだけ）、屋久島まで見通せる景観が人々に感動を与えている。霧島の火山は新旧様々であり、古代から現代にいたるまで噴火を繰り返してきた。

噴火を起こす霧島山は、人々にとって恐ろしいものである一方で、人に恩恵をもたらすものとも考えられ、古事記・日本書紀などに伝わる天孫降臨（てんそんこうりん）の神話の舞台や山岳修行の場として信仰の対象とされてきた。

そして、霧島山中で修行し霧島山信仰を体系づけた性空上人（しょうくうしょうにん）によって霧島神宮や霧島東神社を含む霧島六社権現と呼ばれる寺社が整備された。霧島神宮は天孫降臨神話で高千穂峰（たかちほのみね）に降り立ち、皇室の祖先神である天照大御神（あまてらすおおみかみ）の孫であり、初代天皇である神武天皇の曾祖父とされる神、瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）を祀っている。6世紀頃に高千穂峰と御鉢火口（おはちかこう）の中間付近に建てられた社殿が始まりとされるが、噴火により焼失した後に高千穂河原付近に再建されるも、再び噴火により焼失して現在の場所に移転した。これだけ噴火による焼失を繰り返しながら、霧島神宮における祝詞（のりと）には「噴火をできるだけ小規模にしてほしい」というものはあるが、「噴火しないでくれ」と祈るものはない。このことも人々の畏敬の念を象徴している。

また、自然からの恵みを人々に与える神への感謝も信仰につながっていると考えられる。稲作にまつわる神事は全国で数多く行われているが、神話では瓊瓊杵尊が初めて水稻を作ったともいわれており、霧島神宮周辺には日本最古の水田とされる狭名田の長田（さなだのおさだ）がある。

こうした神話や伝統的な信仰は天孫降臨御神火祭（ごじんかさい）や、狭野神楽（さのかぐら）、祓川神楽（はらいかわかぐら）などの祭り・文化を地域にもたらしている。また御池（みいけ）や六社権現の一つである狭野神社（さのじんじゃ）などには神武天皇（じんむてんのう）が生まれ幼少時を過ごされた伝説が残っている。

霧島山一円は神仏と人の世をつなぐ聖地として豊かな自然環境が保たれ、修験道（しゅげんどう）の地として利用もされてきた。その豊かな自然は今、国立公園として守られ、人々に恩恵を与えている。

※霧島山：単独の山の名前ではなく、霧島地域における火山群の総称として一般的に使われている。



霧島山（新燃岳や韓国岳方向）

来訪者に望まれる体験

訪問先での体験、経験を通して
訪問者に知ってほしい・感じてほしいこと

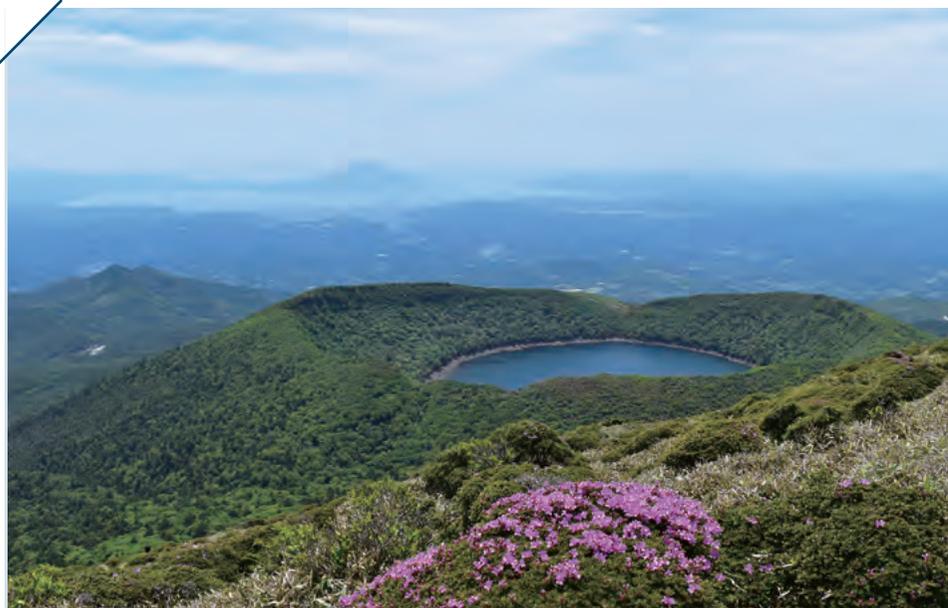
- 火山地形の雄大な景観を見て、日本で最初に国立公園に指定された当時に思いをはせてほしい → ❶
- かつて霧島神宮があった場所を訪れて、度重なる噴火の中でその場所を移しながらも人々に信仰され続けてきたその歴史を実感してほしい → ❷
- 天孫降臨神話にゆかりのある土地を訪れたり、祭りや神楽を楽しんで、この地に息づく神話や信仰がもたらした文化を味わってほしい → ❸
- 霧島六社権現の神社を訪れて、深い森の中で修行に励んだ修験者たちを想像してほしい → ❹

霧島地域 ストーリー ① を実感できる、おすすめの場所・体験

「来訪者に望まれる体験」ができる場所やアクティビティ

1

展望台からの眺望を楽しむ



白鳥山やえびの高原池巡りコースの展望台からは、韓国岳や甕岳、白紫池、六観音御池を望むことができ、韓国岳などの山頂からは錦江湾や桜島を遠望できます。

2

高千穂河原を訪れる



霧島神宮の古宮址（前の社殿跡地）があり、御鉢や中岳を間近に見ることができます。天孫降臨御神火祭の斎場にもなっています。

3

狭名田の長田を訪ねる



瓊瓊杵尊がはじめて水稻を作られた田であると伝えられていて、6月には霧島神宮のお田植え祭が開催されます。

4

六社権現に参拝する



霧島神宮や霧島東神社、狭野神社、東霧島神社、霧島岑神社では、霧島山を背景に静かな境内を参拝することができます。



地域の重要性を表す独自の因果関係

霧島山に降り注ぎ磨かれた豊かな水が、
地域の農業や文化を潤している

着目した地域の重要な資源

湧水

焼酎

田の神像

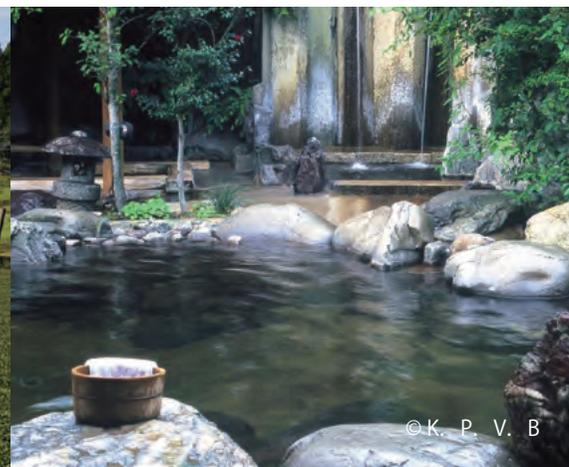
温泉

霧島茶

サツマイモ

稲作

左・田の神像
中・茶畑（霧島茶）
右・霧島地域の温泉



霧島地域 ストーリー ②

霧島山は遠方から見て、霧の中に山が島のように浮かんでいる様子がその名前の由来といわれているように、深い霧が発生することが多い。また日本の中でも特に降水量が多い地域である。特に夏季には太平洋と東シナ海から湿った風が霧島山系に吹き付けて大量の雨を霧島の山岳地域にもたらす。その大部分は地下水となって麓となる周辺地域に豊富な湧水となり湧き出している。

地下水がマグマや蒸気の熱で温められて湧き出すと、温泉となる。霧島山一円や周辺地域には温泉地が点在しているが、湧き出す場所により泉質が異なり、泉質が豊富な地域として親しまれている。

霧島およびその周辺の火山からの噴出物によりできたシラス層や火山灰土壌などが、霧島山に降った雨を長い年月をかけて磨き、地下に蓄えられた水にシリカと呼ばれる二酸化珪素（にさんかけいそ）を多く含ませる。ミネラルを含む天然水は飲料などにも広く利用されている。また霧島地域の生活用水の9割以上が湧水もしくは地下水といわれており、この豊かな水が農業や畜産、淡水魚養殖などにも利用され、地域に恵みをもたらしている。

地域を覆うシラス台地はサツマイモの生産にとっては好条件であり、豊富な天然水も利用されて芋焼酎が作られている。そして、標高による寒暖差、高い湿度と霧による適度な日光の遮断、余計な養分が無い土壌と湧き水などの条件が霧島茶などの生産に繋がっている。

一方、霧島山の北側では稲作が盛んに行われている。霧島山などからの豊富な水と、加久藤（かくとう）カルデラや小林カルデラから成る盆

地が生み出す昼夜の寒暖差は稲作に適した環境をつくりだしている。

また、火山がもたらす岩石は、石蔵や石橋、田の神像などを作るのにも利用され、地域の生活や文化を支えている。特に豊作を祈願してつくられた田の神像は霧島山と稲作のつながりを物語っている。



霧島山から流れる
豊富な湧水

来訪者に望まれる体験

訪問先での体験、経験を通して
訪問者に知ってほしい・感じてほしいこと

- 霧島山の麓から湧き出す豊富な地下水を見て、飲んで、湧き水が地域を潤していることを実感してほしい → ❶
- 温泉に入って、火山がもたらす恩恵を肌で体感してほしい → ❷
- この地域で生産される芋焼酎やお茶、お米を飲んで、食べて、火山とこの地域の気候がもたらす恵みを味わってほしい → ❸
- 田んぼの傍らにたたずむ田の神像を訪れ、古くから続く霧島山と稲作の深い結びつきを感じてほしい → ❹

「来訪者に望まれる体験」ができる場所やアクティビティ

1

湧水地を訪れる



丸池湧水（湧水町）

地下水が湧き出る様子がわかったり、湧き水を飲むことができる場所もあります。

2

温泉に入る



© K. P. V. B

公衆浴場や宿泊施設では、湧き出る場所によって泉質のちがいを楽しむことができます。

3

お茶や焼酎、お米を味わう



酒蔵では焼酎づくりの見学ができるほか、道の駅や土産物店などでお茶やお米を買うことができます。

4

田の神像を巡る



霧島山の麓に広がる水田の周囲には田の神像が点在していて、それぞれちがった表情を見ることができます。



地域の重要性を表す独自の因果関係

霧島山の火山活動が生み出した多様な環境が、
豊かな動植物を育てている

着目した地域の重要な資源

大きな標高差による多様な植生

ノカイドウ

ミヤマキリシマ

キリシマミズキ

雄シカの鳴き声

キリシマギンリョウソウ

植物の遷移

左.ミヤマキリシマ
中.キリシマミズキ
右.ニホンジカ



霧島地域 ストーリー ③

霧島山は、約 34 万年前に大規模な噴火が起こり形成された加久藤カルデラの南縁に、その後繰り返された噴火活動により形成された大小 20 あまりの火山から成る火山地形である。火山がつくりだした広大な山地は多様な動植物を育ててきた。

霧島山にはミヤマキリシマやキリシマミズキ、キリシマギンリョウソウ、キリシマミドリシジミなど、「キリシマ」の名前がついた植物、昆虫が見られ、世界でここできしか自生しない希少なノカイドウもある。野生のシカやアナグマ、イノシシなどの野生動物もよく見られ、えびの高原での秋の雄ジカの鳴き声は「日本の音風景 100 選（環境省）」にも選ばれている。

温暖な気候により平地では照葉樹の森が広がる一方で、霧島山は大きな標高差があるため、山麓から山岳地域に向かうと常緑広葉樹林から落葉広葉樹の森、針葉樹林、風が吹き荒れる場所の低木林に至るまで、標高により植生の変化が見られる。開花時に山肌を彩るミヤマキリシマは概ね標高 1000m 以上の九州の活火山でしか見ることができない。火山性ガスや火山土壌の中では多くの植物は生息できないが、ミヤマキリシマはこのような火山環境にも適応できるからこそ大群落を維持できている。2011 年新燃岳（しんもえだけ）噴火のあとには周辺の植物は相当ダメージを受けたが、火山灰やつもった軽石のすき間からミヤマキリシマがいち早く芽を出した。

また、霧島の火山は新旧様々であるため、その山ごとに植生が異なる。火山噴火により森林が消失してから森林が形成されるまでの植生遷移（しょくせいせんい）の様々な段階を見ることができる。かつてはいた

るところで火山ガスが噴出し、過酷な環境で生育できるススキが一带を占めていた。穂先をエビ色に染めたススキが、「えびの」の地名の由来ともなっているともいわれている。

大浪池や六観音御池（ろっかんのんみいけ）など比較的古い火山の高い場所には、ブナやミズナラなど寒い地域に分布する樹木も見られる。これは最近の氷期（約 2 万年前）に分布していた植生の子孫が古い火山に残っているからだと考えられている。



ノカイドウ

来訪者に望まれる体験

訪問先での体験、経験を通して
訪問者に知ってほしい・感じてほしいこと

- 「キリシマ」の名前がついた植物や昆虫、この地域に生息する哺乳類などを観察して、この地域独自の自然の多様性を感じてほしい → ① ② ③
- 霧島山の登山をしながら、標高のちがいによる植生の変化に目を向けてほしい
→ ① ② ③
- 噴火をした時期が異なる山を歩いて、森の景色や植物の種類が違うことを実感してほしい
→ ② ③

「来訪者に望まれる体験」ができる場所やアクティビティ

1

ミヤマキリシマの花を楽しむ



開花シーズンにはミヤマキリシマの花が、山肌を鮮やかな赤紫色に彩る様子を楽しむことができます。

2

登山をする



韓国岳や高千穂峰、甕岳、御鉢、硫黄山などの登山コースがあり、山ごとに異なる景観を見ることができます。

3

大浪池や六観音御池を歩く

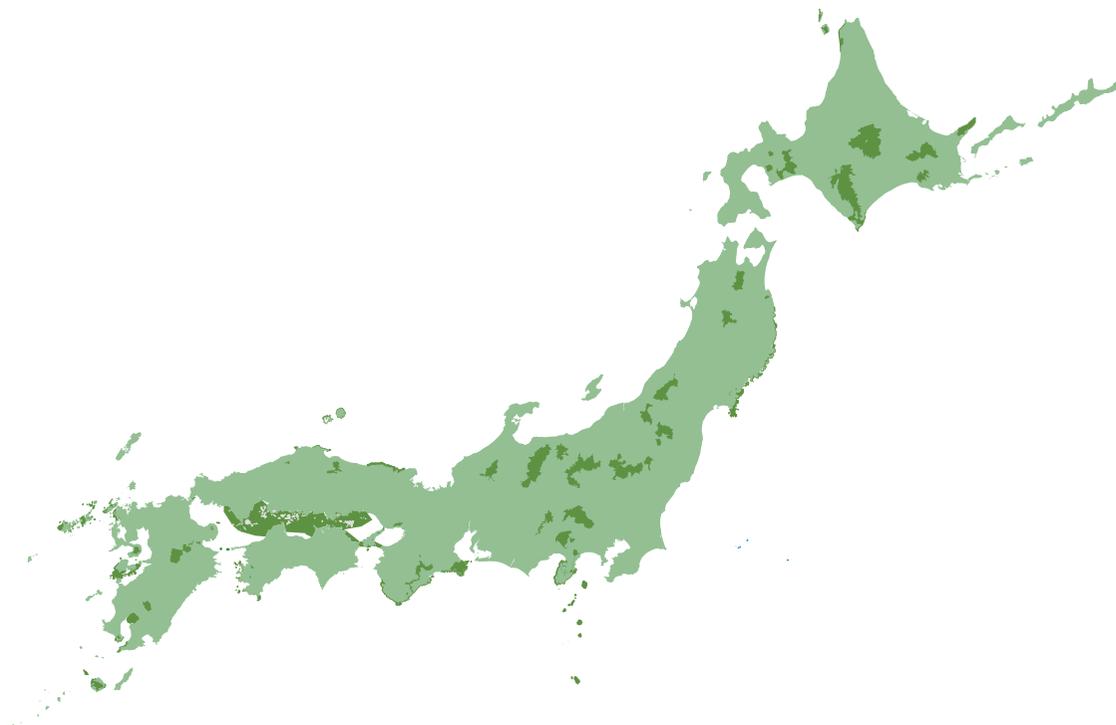


比較的古い火山の標高の高い地域ではブナ林の中を歩くことができます。

個性豊かな 35 の国立公園

※2025 年 3 月現在

北から南まで、約 3,000 キロメートルに伸びる日本列島には、雪をかぶった山々から色とりどりの珊瑚礁まで、さまざまな自然の風景が広がっています。約 7 千種の植物、1 千種を超える動物、7~10 万種もの昆虫類などが生育・生息しています。また、豊かな水や活発な火山の恵み、手つかずの自然だけではなく、人の手が入ることによって多様な生態系と自然環境が保たれている里海、里山など、人と自然が共生する場所もあるのが日本の国立公園の特徴です。



国立公園 90 年の歴史

国立公園は、世界の多くの国で設けられていますが、世界で初めての国立公園として、アメリカのイエローストーン国立公園が 1872 年に指定されました。日本では明治 44 年（1911 年）に「日光を帝國公園となす請願」が議会で提出され、その後多くの人々の要望が高まって昭和 6 年（1931 年）に国立公園法が制定され、それに基づいて昭和 9 年（1934 年）3 月 16 日に瀬戸内海、雲仙、霧島の 3 箇所が日本初の国立公園に指定されました。

その後、昭和 32 年（1957 年）には国立公園法が全面的に改定されて自然公園法が制定され、国立公園、国定公園、都道府県立自然公園といった現在の自然公園体系が確立されました。日本の素晴らしい風景の保護と適正な利用の増進のために様々な制度や仕組みを整えながら、きめ細かな管理ができるようにして、現在に至っています。北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで国立公園は 35 箇所（令和 7 年 3 月現在）になり、毎年多くの人々が利用しています。

日本の国立公園制度

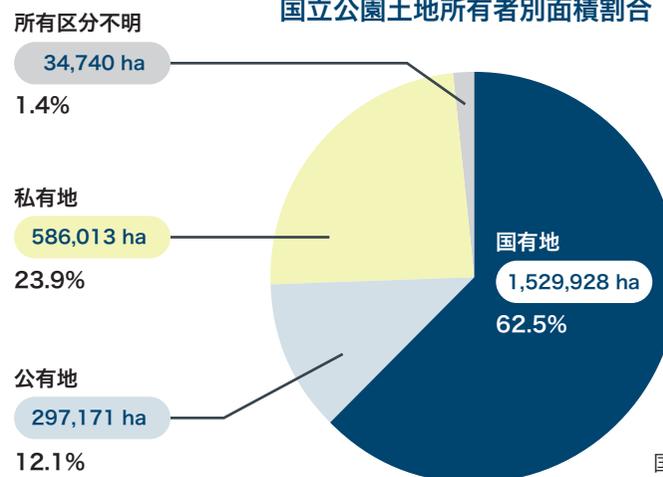
世界の多くの国の国立公園では、その先駆けである米国のように、壮大な自然を全て国有地として、ほぼ手つかずの自然を守る制度となっています。これを「営造物（えいぞうぶつ）公園」といいます。日本の国立公園の区域は土地の所有にかかわらず設定され、人が暮らす場所も少なくありません。優れた景観を守るため開発は制限されています。こうした形の制度を「地域制（ちいきせい）公園」といいます。外国人の方の多くは、日本の国立公園に人が住んでいるのを見て驚くかもしれません。しかし、人々が自然と共に作ってきた農村・漁村の暮らしは、自然と深いつながりを持っています。

また、国立公園は、自然についての知識を深め、健康やレクリエーションのために自然と触れ合う場として利用されています。

国立公園は全国に 35 個

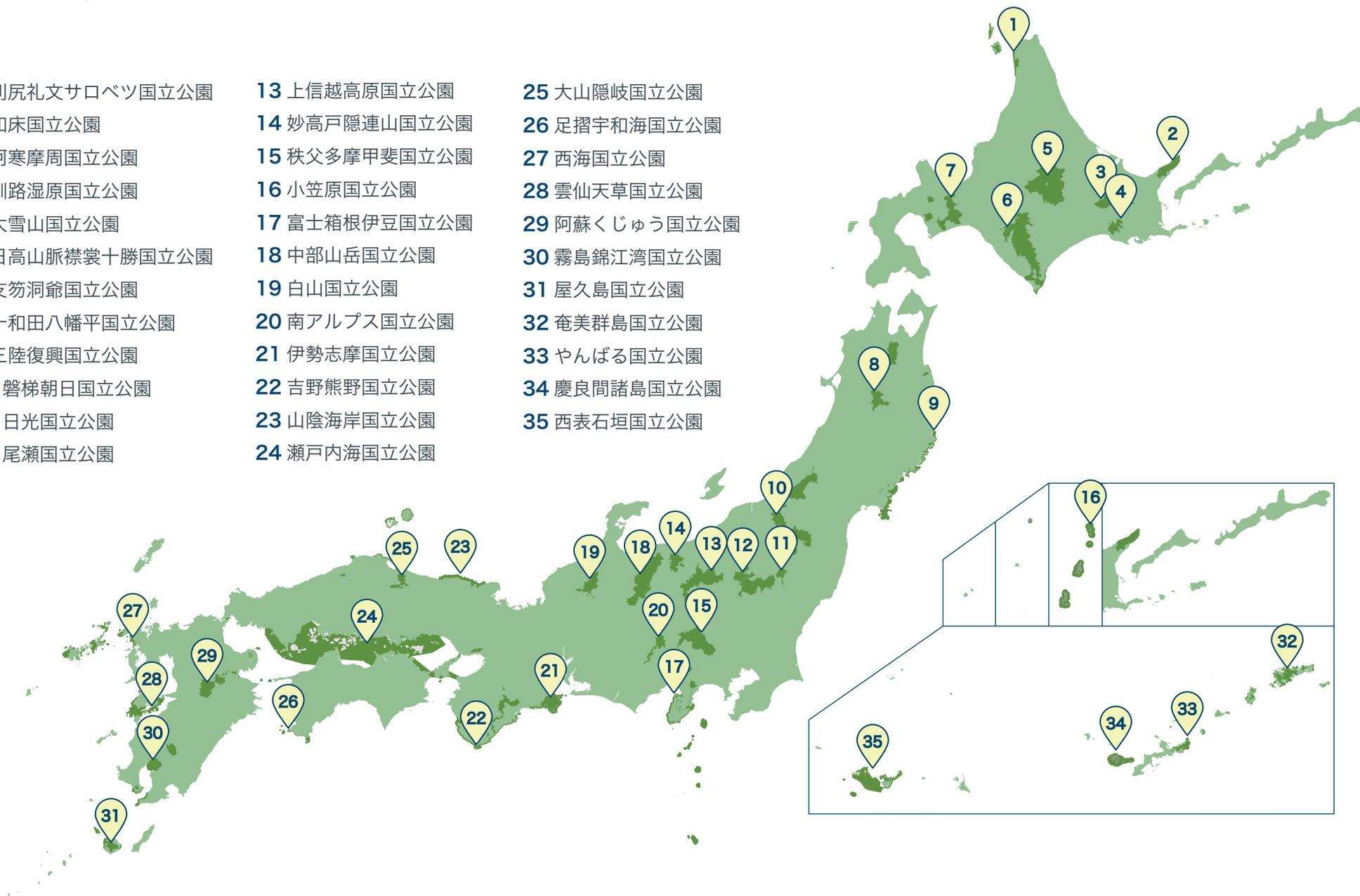
日本の国立公園は、土地の所有に関わらず指定を行う「地域制自然公園制度」を採用しており、多くの私有地も含んでいます。

国立公園土地所有者別面積割合



国立公園土地所有者別面積割合
令和 7 年 3 月 31 日現在
国有地の大部分は林野庁所轄国有林

- | | | |
|----------------|---------------|---------------|
| 1 利尻礼文サロベツ国立公園 | 13 上信越高原国立公園 | 25 大山隠岐国立公園 |
| 2 知床国立公園 | 14 妙高戸隠連山国立公園 | 26 足摺宇和海国立公園 |
| 3 阿寒摩周国立公園 | 15 秩父多摩甲斐国立公園 | 27 西海国立公園 |
| 4 釧路湿原国立公園 | 16 小笠原国立公園 | 28 雲仙天草国立公園 |
| 5 大雪山国立公園 | 17 富士箱根伊豆国立公園 | 29 阿蘇くじゅう国立公園 |
| 6 日高山脈襟裳十勝国立公園 | 18 中部山岳国立公園 | 30 霧島錦江湾国立公園 |
| 7 支笏洞爺国立公園 | 19 白山国立公園 | 31 屋久島国立公園 |
| 8 十和田八幡平国立公園 | 20 南アルプス国立公園 | 32 奄美群島国立公園 |
| 9 三陸復興国立公園 | 21 伊勢志摩国立公園 | 33 やんばる国立公園 |
| 10 磐梯朝日国立公園 | 22 吉野熊野国立公園 | 34 慶良間諸島国立公園 |
| 11 日光国立公園 | 23 山陰海岸国立公園 | 35 西表石垣国立公園 |
| 12 尾瀬国立公園 | 24 瀬戸内海国立公園 | |



国立公園のブランドプロミスの設定について

背景・趣旨

2016年に政府がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」の柱の一つとして国立公園が位置づけられ、「国立公園満喫プロジェクト」が進められてきた。先行8公園において集中的に実施してきたが、2021年以降は、利用面での施策を強化した改正自然公園法(2022年4月施行)の運用も含め、全35公園への水平展開を進めている。

その中で、国立公園のブランディングを強化するため、「国立公園のブランドプロミス」として、国立公園が来訪者・地域に約束することを、2023年に国立公園のブランディング「全ての国立公園の共通の管理運営指針」として定められ、国立公園の管理運営に関わる関係者が共通の理解を持つこととされている。

合わせて、「国立公園のブランディング活動」として、「ブランドプロミスを実現し続けるため、環境省と地域・関係者が一緒に取り組むこと」が全ての国立公園で共通の項目として、国立公園の管理運営に関わる関係者が連携して取り組むものとして定められた。

ブランドメッセージ

「その自然には物語がある」

提供価値

多様な自然風景と、生活・文化・歴史が凝縮された物語を知ること、忘れられない唯一無二の感動や体験ができる。

ブランドプロミス（国立公園が来訪者・地域に約束すること）



1

感動的な自然風景
美しい自然風景

2

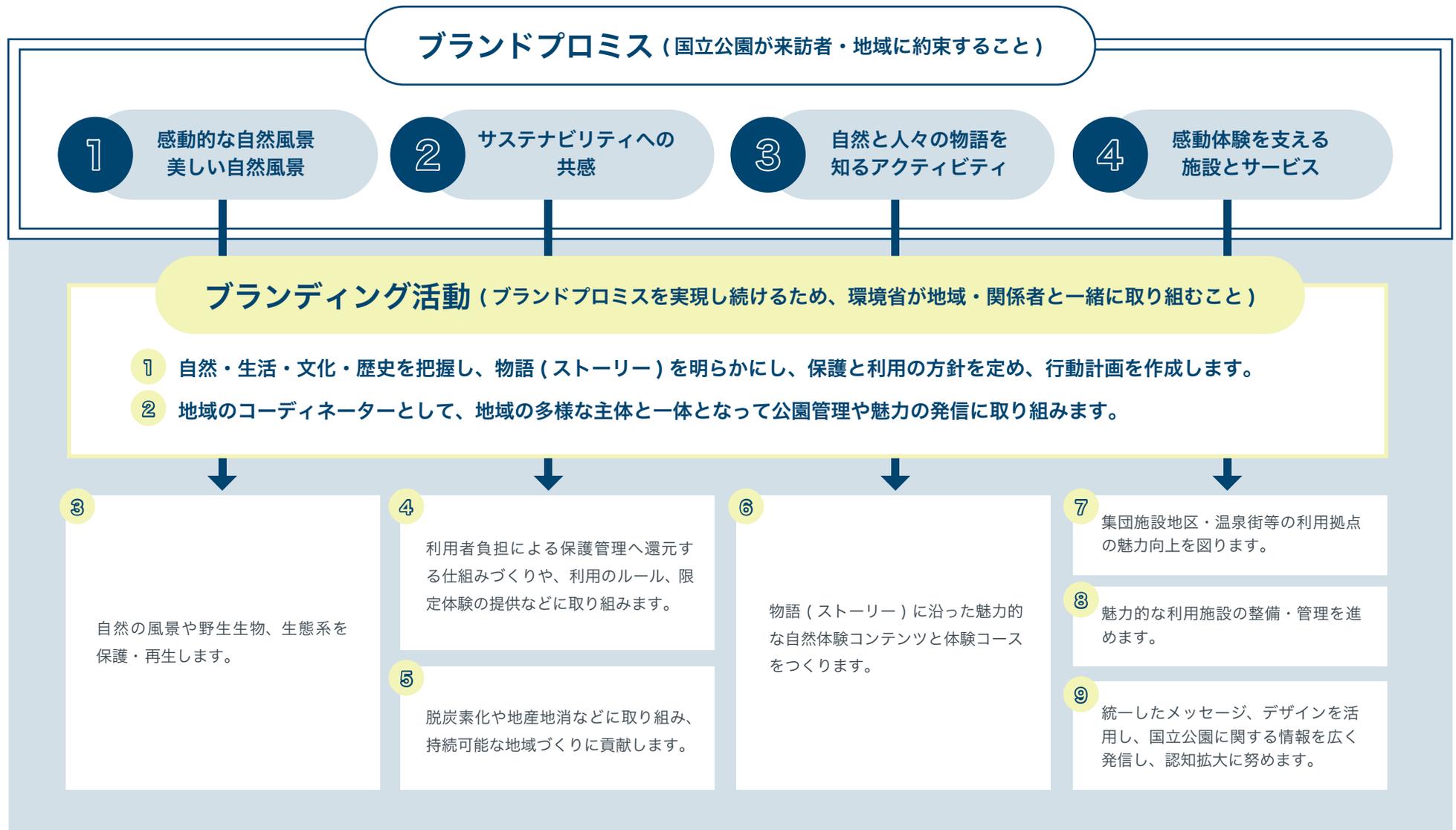
サステナビリティへの
共感

4

感動体験を支える
施設とサービス

3

自然と人々の物語を
知るアクティビティ



ジオパークの基本理念

ジオパークは、科学的に貴重な地質や景観などの「地質遺産 (Geological Heritage)」を保護するとともに、教育、ツーリズムなどの推進に活用し、地域の持続可能な開発に寄与することを目的としています。

ジオパークは、主として地形・地質を対象とするものですが、地形・地質はその場所の生態系に大きな影響を与え、またそこで生活する人々の生活様式や文化にも影響します。このため、ジオパークでは、生態系や地域の生活・文化や歴史なども活動の対象としています。

2015年11月に開催された第38回ユネスコ総会において、世界ジオパークが、「国際地質科学ジオパーク計画 (International Geoscience and Geoparks Program)」の UNESCO Global Geoparks としてユネスコの正式事業となりました。

国立公園とジオパークの様々な連携

国立公園とジオパークは、多くの地域でエリアが重複しています。「保護」「施設整備」「教育・普及」「プログラム開発」「人材育成」等、国立公園はジオパークと連携し、様々な取り組みを行っています。

国立公園とジオパークの連携により、新たな地域の魅力を発見する！

日本には多種多様な自然が存在しています。その国立公園の優れた自然の風景や自然に根差した文化は、観光資源としてとても魅力的で、訪日外国人の関心も高いものです。それらの魅力あふれる自然資源を活かし、国立公園とジオパークの連携を図ることで、エコツーリズムや環境教育などを発展充実させ、地域の活性化を行っていきます。

霧島ジオパーク

霧島ジオパークは九州南部の宮崎県と鹿児島県にまたがる地域にあり、ジオパークエリアの中央にそびえる霧島山は現在も活動を続ける活火山です。霧島山は20を超える火山が折り重なってできており、各々の火山は山体に対して大きな火口を持ち、その中には豊かな水をたくわえているものもあります。他にも溶岩流や火砕丘、山体崩壊に伴う流れ山など、多様な火山地形が見られることは霧島山の大きな特徴です。また、エリア北方には霧島山の誕生に先立つ加久藤カルデラや小林カルデラがあり、エリア南方は始良カルデラの縁に接しています。こういった現代人が経験していない巨大噴火に伴う陥没地形やその周辺の広大なシラス台地（火砕流台地）も同様にこの地域を特徴付けています。このような火山地形と間近で対峙し「火山とは何か」を考える上で、霧島ジオパークは最も適した場所だと言えるでしょう。



【監修者】

井村 隆介（鹿児島大学共通教育センター）
大學 康宏（高原町教育委員会教育総務課 文化財係長）
高原 純一（産業能率大学経営学部教授）

【写真提供者】

公益社団法人 鹿児島県観光連盟（K.P.V.B）
宮崎県観光協会
須田 淳

【発行】

2025年8月

【請負業者】

株式会社 自然教育研究センター
斯文堂株式会社

【発行者】

環境省九州地方環境事務所
霧島錦江湾国立公園管理事務所

